

# プレハビリテーションへの クラウドファンディング

—基本に忠実な革新—

産業医科大学  
学長 尾辻 豊

本学第1外科学におけるプレハビリテーションとこれに対するクラウドファンディングの両方が成功しましたことにお祝いを申し上げます。私は、「リハビリテーション」という言葉を聞くと、母教室（鹿児島大学第一内科）の金久卓也先生（1914年～2008年）を思い出します。金久先生は心身医学のパイオニアですが、1956年にニューヨーク・コーネル大学へ留学され、ここでリハビリテーションと出会い、1961年に（おそらく日本初の）リハビリテーションに関する総説（リハビリテーション 金久卓也、日本医事新報）を執筆され、1962年にリハビリテーション診療を開始され、この分野においてもパイオニアになりました。金久先生は「病気の臓器以外の機能回復・改善も重要である」と卓見され、1965年に「心臓血管病のリハビリテーション（ポールDホワイ特著）」を翻訳出版されました。

がんの手術前のプレハビリテーションは、正に「病気の臓器以外の機能改善を目指した診療」です。内容は運動・良質な食事・精神的ケアですが、すべて理にかなっています。運動・食事も「これらが治療によい」と患者さんが認識されますと、とてもよい精神的ケアになると思います。いくら時代が変わり、医学が発達しようと、「人間の基本は、食事・運動・休息と精神（気持ちの持ち方）」なのだと思います。プレハビリテーションは基本に忠実な革新です。金久先生がご存命でしたら驚喜されたことと思います。

クラウドファンディングは、私が苦手なお金の活用法です。古典的な株式や銀行制度に近い集金を、ITを活用して大学病院の医師のようなお金の素人が行うことができるものと表面的に考えます。現在放映中の大河ドラマ「青天を衝け」の洪沢栄一さんがこれを見ると驚喜したでしょう。これも基本に忠実な革新だと思います。

今回の第1外科学プレハビリテーションの成功を見て、このようなことを感じました。プレハビリテーション・第1外科学・本学のさらなる発展を願っております。